

第3回伊豆市総合計画審議会 会議録概要

日 時 令和3年6月22日（月）19時～

場 所 生きいきプラザ 健診ホール

出席者 ○伊豆市総合計画審議会委員（13名）

飯田正志会長、内田直美副会長、遠藤護委員、植田延司委員、志賀清悟委員、中村優希委員、土屋秀行委員、山口美奈子委員、立岩康男委員、小長谷知恵委員、梅原龍一委員、佐藤雅彦委員、服部保江委員

○オブザーバー（2名）

山下奈々美氏、大石桜子氏

1. 開会

事務局より、資料を確認。また、16名中13名出席のため本日の会議が成立することを報告。

2. 会長挨拶

会長より挨拶。

3. 議事

（1）総合計画体系図について

資料1について事務局より説明。委員からの意見はなし。

（2）後期基本計画における目標指標（KPI）の考え方について

資料2について事務局より説明。委員からの意見はなし。

（3）後期基本計画内容について

資料3について事務局より説明。以下意見交換。

（委員）

人口を増やすために若者に来てもらう部分で、「市民と共有したいありたい姿」とは良い表現だと思う。

（市長）

10年前は修善寺駅が昔の駅で伊豆縦貫自動車道がなかったが、今は修善寺駅が変わり、月ヶ瀬インターが完成し、土肥へのアクセスも良くなった。また、都市計画の線引きを廃止することで牧之郷地区が開発された。同様に、「今から10年後にどうなっていきたいか」ということを伺いたい。「今から10年後こうありたい」という姿を伺い、その方向へ向かうこれからの5年間の施策を考えたい。皆様には自由に発言いただき、事務局で整理を進めたい。

（委員）

人口を増やすために、分譲住宅が牧之郷で増えてきているが、店舗や大きな道路が欲しいことなど、一般住宅ではない部分も併せて計画していただきたい。そうすると、住宅街が美しく形成され、

また、公園もできると思う。一般住宅以外の部分を行政の方でリードしていただきたい。

(委員)

行政がやるべきことと行政でないところで進められることがあると思う。私は移住者なので、10年前のことは知らないが、3年前に移住し、新しくなっていく伊豆市を分かっている。しかし、新しいものができてもそこに新しい人が来ないと意味がない。伊豆市には、田舎ならではの自然があり、都会とは違うところが良い。私は、伊豆市は10年後、伊豆半島で人口が一番多い市であったらいいと思う。どの地域でも様々な活動がされているが、どこの地域にもない、そこだけの魅力を作る必要があると思う。その魅力がどういったかたちでできるか、私なりに考えていきたい。

(委員)

少子化対策の取組が記載されているP. 3～4の作戦2、3について、果たしてこの取組で少子化対策ができるのか疑問に思った。そもそもなぜ結婚しないのかというところにアプローチをする施策がない。出会いの場を増やし、婚活する機会をつくることは良いが「なぜ結婚をしないのか」ということに対し、出会いの場を与えたところで結婚はしないと考える。

そう考えた時に、私の会社も同様であるが、近年、女性の建設会社への興味関心が高くなっている。例えば、函南町のひとり親が、興味があって相談に来た。しかし、女性を雇う企業側はどこでどのような支援をすればよいか分からない。もちろん、法的に介護規定を設ける等の整備はしているが、運用の実態について経験がない。できれば行政側で、子育てをしているママ達を応援する施策、例えば、法人税を少し減免するなどの措置ができないか。

行政側が、伊豆市の法人に対して子育て世代のママ達を応援する具体施策をしないと結婚に結びつかないと考える。結婚に結びつかなければ、少子化問題が解消されない。あるいは、フランスのように、私生児を子として認めることなど戸籍法を改正しない限り、少子化が解消されないと思う。

(委員)

10年後、私は後期高齢者を目前とする年齢になる。今後の問題点として、免許を返納した後の移動手段がある。また、子ども家族がUターンするが、低収入のため車を2台持てず、免許を持っていても車がないため外に出ることができない小さい子を持つ母親の移動手段も課題と考える。このような課題をリンクさせた交通施策ができると良いと思う。

また、移住・定住について、今のままだと不安なので、早いうちに駅の近くに引っ越したいと考える時もある。そうならざるを得ない環境を変えて欲しいと思う。魅力のあるまちでずっと最後まで暮らせればと思う。

(オブザーバー)

現在高校3年生だが、子どもが少なくなっていることを感じる。3年生は180名いるが、2年生1年生と段々数が少なくなっており、少子化について考えていく必要がある。P. 4の作戦3に「伊豆市の良さを発信するプロモーション」とあるが、力を入れていくとよい。また、SNSの有効活用などあるが、高校生や若者が広め、市の代わりに取り組むのも一つの手だと考える。

(オブザーバー)

P. 17の「災害などリスクに強いまちづくり」について、土肥は伊豆市の中でも自然が多く、津波や地震などもあることから、「海のまち安全創出エリア」などのエリアを設定している。土肥だけでなく、伊豆市全体に広め、様々な場所にハザードマップや避難経路などの紙を貼る等、防災に力を入れた方がよいと思う。

(委員)

今年 61 歳になる。定年になると大学の同級生が遊びに来てくれるかと思ったが全員まだ働いている状況である。土地は沢山あるので、友達を何人か呼び、何か面白いことができないかと考えている。10 年後になれば、友達も遊びに来てくれ、その子どもたちも来てくれると状況も変わるのかなと思う。伊豆市は、そのままの自然が残っていることが良いことと思うが、現在、鹿に荒らされてしまい、悲しい山の状態になっている。鹿さえどうにかなれば、山の再生が少しは進むと思う。70 歳前までに友達を呼び、何かやりたいなと思う。そのような伊豆市であって欲しいと思う。

また、伊豆市の特色として、東京から 2 時間くらいのアクセスは魅力的だと思う。スキー以外は伊豆半島で何でもできたので、こんな楽しいところはないと思っている。60 年間生きて、「こんなことやあんなことをしたい」と思うことがあるので、そういったところが残っている伊豆市でありたい。

(委員)

伊豆市だけが少子化ではなく、日本全体が少子化の状況であるため、国が考えなければならない施策を伊豆市で何とかしようとしてもどうしようもないのではと考える。10 年後のことを考えると少子化は上手い施策ができて結果は 50 年かかる。

人口減少への一番効果的な対策は、高齢者への思いやりであると考え。医療や福祉について重点を置いた方がよい。お年寄りが残り、元気に長生きしていただければよい。少子化は悪いことだと思うが、高齢化は悪いことではないと思う。高齢者が増えれば、介護など人も物も必要になってくるため、産業も発展する可能性がある。そこに力を入れたらと思う。

人を集めるという意味では、伊豆市は東京から近いと言われるが、東京の人から見ると遠いと感じる。その感覚の違いを伊豆市のみなさんは持たなければならない。

また、「半島」は課題が多いと考える。私は和歌山・紀伊半島出身であるが、かつて日本中に新幹線を通す際、和歌山県は半島であったため、新幹線が通らなかったといわれている。半島の課題をカバーすることは難しい。少子化対策も大事であるが、10 年後、高齢者を大事にするまちになってほしいと思う。

(委員)

3 年後に中学校ができ、10 年後になると、沢山の子ども達が近隣から中学校に通ってもらえると良いと考えた。そのためにどうすれば良いか、みなさんのご協力をお願いしたい。

現在、支援の必要な場面が様々な所に出てきていると思う。子どもたちが、大人になった時に、仕事に就き、また、畑の手助け等何かの手助けができ、みんなが笑顔で働くことができると良いと考える。私の親戚が、障害者授産施設を運営しており、農業をどこかでやりたいという話をしている。自分だけでは実現することは難しく、まとめて高齢者や若者などが元気に、全員で農業ができると良いなと思った。10 年後、笑顔が少しでも増える伊豆市になると良いと思う。

(委員)

土肥地区で障害者支援施設に勤務しており、小中一貫校やそれ以前の土肥中学校の時から、沢山の生徒にボランティアで行事に参加してもらっている。そのような経験が、将来の福祉の担い手に繋がると思う。伊豆市内には障害者施設や高齢者施設も多くあるので、交流を通じて高齢者を活かし、施設を活用してもらえると良いと考える。

(委員)

私が子どもの頃、社会の教科書では、戦後日本の人口は7,500万人であった。今後、その人口から下がっても十分に生きていけるのではないかと思う。なぜなら10年後は、大きなバスで通勤通学するのではなく、電気自動車で自由に移動できると思う。裾野市で計画しているトヨタのウーヴンシティに関する会議に出席したことがあるが、そのような考えの街があるのかと感心した。自動運転については、スイスの会社にある21,000円のICチップを使用すると、約75,000円で10cmの精度で移動できるシステムが作れるところまで来ているようである。静岡大と浜松大の先生が実証実験を進めており、そんな安い価格でできるのかと思った。セットで10万円もしないで自動運転が実現できる時代が目の前に来ている。そのため、そんなに人口が減ろうと心配する必要はないと思う。

また、伊豆市の人口について、友達を一人伊豆市に連れてくれば、人口は倍になる。本当に移住して伊豆市が良かったという人が、また一人連れてくれると良い。型にはまった生き方でなく、一人ひとり自由な生き方ができ、楽しんで、友達を連れて来られるとよい。

ただ単に、道路と敷地面積の関係から最大公約数の施設を建てる、また、碁盤の目の道路を整備し、家を建てるだけではつまらない。伊豆市らしさを全面的に出してもらいたい。「伊豆市のこの部分が気に入ったから移住してきた」という目的を持った方に来てほしい。人口が少なくなっても、一人ひとりが生き方をしっかり磨いてくれるとよい。もしかしたら10年後、中学校へ何十万円かの車で免許無しで通学できるかもしれない。そのような楽しい時代が来るかもしれないという気持ちで、これから10年生きていきたいと思う。

(委員)

これから、伊豆市だけが人口が増えるということはないと思う。2万人程度の市になるかもしれない。その時、全て平均的なものが整っている方が良いか、それとも、伊豆市の価値観をしっかり持って何かの特化したしたものにした方が良いか。特化していれば、「それだったら伊豆市に行ってみよう」という流れになると思う。「これについては、伊豆市は凄いで」というものがないと人が集まるのは難しいのではないかと思う。伊豆市の財産は何かを見直し、全面に押し出していくことが伊豆市の生きていく方向ではないかと思う。10年後は人口が減っているのではないかと思うが、伊豆市に住む人はここで暮らす価値観を見出し、楽しく暮らしていけるという形ができると良い。

(委員)

地域づくり協議会の立場として意見する。田んぼアートを伊豆市の目玉として作ろうと活動し、3年目になり、メディアにも取り上げてもらったことがある。

それ以外の活動について、孫が天城小学校の2年生であるが、今の子どもは旧月ヶ瀬小学校のことを知らない。子ども達には地域の歴史も知ってもらいたいと思い、協議会で検討したところ、旧天城湯ヶ島町の教育委員会の資料が残っており、それを活用し、7月に発表をする予定で準備している。現在市内には8つの地域づくり協議会有り、それぞれ頑張っているため、ぜひPRしていただきたい。

また、月ヶ瀬梅組合で工場長を務めており6年目になる。5月の中旬に青梅を収穫し、3週間梅と砂糖で寝かしシロップを作っている。シロップは最大で500mlが2万本、300mlが9,000本しか生産できない。組合の仲間52人で取り組んでいるが、実際動けるのは3分の1くらい的人数であり、それでも良いかと思っている。一方で、一生懸命取り組まれた方が去年亡くなられた。今度は私達が下に伝えなければならぬと強く思っている。様々な取組を行政の方でされている中で、行政任せでは駄目だと思っている。何かで特色あるものを作っていければ思う。道路整備など自分達でできないことは行政に任せ、人と人との繋がりなどに私達が取り組んでいけばよいかと思う。

(委員)

私は幼児教育に携わっている。伊豆市は、子育てするのに良い環境だと思っている。最近、広報の最終ページには、伊豆市で子育てを楽しんでいる家族の姿やエピソードをリレー形式でPRしており、移住されてきた方や元々住んでいらっしゃる方等素敵な発信をされている。

昨日、赤ちゃん訪問をしてきた。その方は、中伊豆地区に家を新しく建てて住むことになり、補助金の申請をしたと喜んでいました。また、子育て支援についても伊豆市は充実しているので、伊豆の国市の友達に話をしているということも聞いた。市民レベルで伊豆市の良さを発見してくれている。この良さを続けていってほしい。

また、小中高でふるさとの良さはとても伝えてられていると感じる。一方で、子どもは大学に行く際、県外に行く場合が多い。私は保育士だったので、地元には仕事があり、地元に戻ることができた。このような例は少なく、帰ってきても仕事がないという点がネックになるかと思う。伊豆市に若者のできる仕事があるといいなと思う。

また、民生委員の視察で群馬県の道の駅「川場田園プラザ」へ行った。そこは、広くて観光バスもたくさん来ており、なぜこんなにも人が呼べるのかと思った。農産物やお店も沢山あり充実している。伊豆市も月ヶ瀬に道の駅ができ、梅やわさびなどの資源はある。上手く人を呼べるようなことができると思う。

また、休耕地が多く、そこで何かできないかと思う。土地付きの住宅など移住の方が来られる仕組みがあると良いなと思う。農業関係でも対策できるとよいと思う。

また、修善寺は閉店した空き店舗が多い。シャッターが開き、そこで各々やりたいことが実現し、活性化できると良いと思う。

(市長)

2009年の成人は、函南町・伊豆の国市・伊豆市がほぼ一緒で447人であった。20年前の1989年に生まれた子どもは同じであったといえる。今は伊豆の国市と伊豆市で3:1の成人数になっており、残念ながら一人負けになっている。ある意味その流れは仕方ないと思いき、あきらめもつくかもしれないが、一方で、伊豆市に来たい人もいる。この前も、沼津に住んでいる方が、伊豆に帰りたいたいという相談があった。あるいは、テレワークやリモートワークをしたいので物件を探している方もいる。ほとんどが我々の事情で移住が実現できていない。伊豆の国市のように300人生まれるようになるとは思っていないが、チャンスロスが多いのは勿体なく、そこは何とかできないかなと思っている。若い30代の話から子育ての話聞いて、そこだけでの施策を検討しても意味がない。高校生は20代の兄弟を見て育つだろうし、20代の働いている方は40代の先輩世代を見て育つと思う。また、40代の方は60代の方を見て考えると思う。そうすると、それぞれの世代がある程度幸せに感じないといけないと思う。理想だけ語っても仕方ないが、もう少し頑張ることができないかという気持ちになる。

(委員)

志賀委員が提案された高齢者を増やそうとするご意見は賛成である。高齢者の方々の田舎暮らしのニーズは高い。私は、伊豆高原にも不動産店舗があり、伊豆よりも伊豆高原の方が、圧倒的に人気がある。伊豆市の移住は、地元に入らなければいけないか、または別荘に入るかの2択になる。地元に入ることはあまり勧めてなく、移住者は地域の文化や習慣は耐えられないと思う。そのため、伊豆市に高齢者が人生後半楽しむとしたら、別荘地をサポートしてあげると良い。水道を公営水道にする、ゴミステーションを設置するなどの対応があると、我々業者はこの別荘地はライフラインがしっかりしており安心であるという点で営業に勧めやすくなる。伊豆市は伊東市と比べ光回線が良い点は、セールストークになっている。ライフラインを少しメンテナンスし、高齢者が別荘地に入り込みやすくすれば、身近に人を増やせると考える。

(委員)

未婚解消に向けた取組について、出会いの場をつくるから結婚できるものではないと考える。結婚できない根本的な理由を当事者に聞き、もっと意見を出さないとせっかく支援しようとハードができて、中に入る当事者の気持ちが動かないと意味がないと考える。

教育について、以前知人が出産をした時に、伊豆市は保育園に預けられるのは8カ月からであり、このような地域に住むメリットは何かと話をしたことがある。伊豆市はのびのびと育てられるメリットはあるが、核家族の場合、ほとんどの方は働かなくてはならない。預けたいときに預けられない場合もある。待機児童になってしまうと都市で暮らすのと変わらない状況になる。そうならないためにも、人を育てる環境を作ればよいのではと考える。専門職大学や保育や看護等の学校を作ることで大きく変わると思う。保育士や看護師の専門知識は、勉強したくて外から来ると思う。その時に、卒業後、3年以上伊豆市で働けば学費を免除するなど、他の地域でもやっている取組も参考にし、若者を取り込む方法を考えたらと思う。また、中学校が建設されるので、その際に空く中学校の活用方法として考えられる。

(委員)

少子化対策について、市として対策を打つことは永久的に必要な話であると思う。また、どの分野も全て万遍なくやらねば、伊豆市はうまく回っていかないとと思う。その中で、「楽しく過ごしたい」、「伊豆市はこれだというセールスポイントがあれば良い」などご意見があったが、生産年齢人口が減ると、財政が逼迫し、何もできなくなるのではと思う。優劣つけるのではなく、万遍なくすることが大切であり、少子化対策に手を抜くことはあってはならないと思う。

また、働く場として、従業員がいかに働きやすいようにするかが大切である。子どもの面倒を見なければならぬ母親に対し、8時～17時のフルタイムで働かせるのは続かない。そのようなことをしていると、人は定着せず、子どもを産むことにも躊躇するようになる。それは、結婚自体も躊躇することに繋がると考える。少子化を解消するために、国の政策もあるが伊豆市独特の政策、どこにもない抜本的な政策を打ってもよいのではと思う。具体的に何かは分からないが少子化対策は手を抜いていけないと考える。

(委員)

中学校が新しくなることで自転車部を作っていたらいいと思う。今回、オリンピックの開催地になっており、また、自転車選手養成所もある。さらに、養成所に関わる先生方や、引退された方も伊豆市に留まって住んでいると思う。下田でサーフィン部の活動が話題になっているので、そう

いったものが可能であれば実施し、子ども達についてくるファミリーの移住にも繋がると良いと考える。

(オブザーバー)

少子化対策は考えなければならず、できることを進めていくべきだと思う。今、働く人や母親を増やしていきたいという方向に向いていると思うが、子どもを保育所に預けられなければ、都会と変わらない生活になってしまうと思う。高齢者も楽しく暮らしてほしいが、少子化対策も考えていかなないと伊豆市は発展しないかと思う。

(オブザーバー)

少子化対策の取組に力を入れた方がよいと思う。少子化が進行すると産業にも影響が出る。将来働くのは、今の高校生や中学生である。

(委員)

私は、交通安全の関係も携わっている。今日たまたま牧之郷を通ったが、住宅ができていては歩道も横断歩道もない状態であり、ベビーカーで渡ると怖く、また、お年寄りも歩くのが怖いと思う。また、狩野川に行きたくても怖くて渡れないと思った。せっかく線引きを外して宅地を増やしてくれたので、今後交通対策は考えた方がよいと思う。

(委員)

少子化対策をやらなくて良いとは言っていない。少子化対策について、例えば分娩施設があるから御産するわけではなく、夜間小児科があれば子育てをするわけでもない。それをさし置いてでも分娩施設や小児科を設置すると大変お金がかかる。そこまでして、少子化対策しないといけないかと思って発言したところである。

また、私の病院では、看護師の募集をしているが全然集まらず、若い人が集まってこない状況である。我々の病院の中でも奨学金出してPRしても戻って来ることはない。その問題を考えることが大切であると思う。子どもを相手にしなくて良いということではなく、別の視点で少子化対策を考えないと難しいと考える。

(委員)

教育は成人するまででなく、死ぬまでずっと教育であるという視点が必要と感じた。そんな学校の作り方を考えていくことが良いと思った。

自分は工場を経営しているが、働きに来てくださいと言っても来ない、選択をしてくれないのが現状である。どんなに条件が良くても、「そんな小さい工場じゃ嫌だ」ということになるのととても寂しく、もっと頑張らないといけなと思った。求人面で、市でサポートしていただければと思う。

(委員)

高校生のバス通学費補助や子ども医療の充実など、伊豆市は子育てしやすいと感じている。中学校で子どもの数が少ないため、部活ができず、活気が少なく、寂しく感じる。にぎやかな学校になるといいなと思う。

(委員)

一人ひとりが応援できる人間であり、また、「応援してほしい」、「手伝ってほしい」と呼ばれる人間になれば、人口が少なくても上手くまわるのではないかと思う。応援してほしいと呼ばれない人間が、何百何千集まってもまちとしても寂しく、維持できないと考える。

市として、どのような人に来てもらいたいのか、そしてどのようなまちにするのか考えることが大切である。また、子育てを支援してその子たちをどのように育てるのか、将来伊豆市のためになる人を育てるのではなく、世界に送り出す子を育てるという考え方をしてはどうか。世界で活躍する人が「静岡県の伊豆市からここに来た」ということを宣伝してもらえれば良いと思う。

例えば、1時間パソコンをつついて「今日は5千万円稼いだ」という人が暮らすこともあるだろう。どのような人に来てもらいたいのか考え、そこに住んでいる人が地域で必要とされる人間になることが大切である。若い人たちは世界に出て、必要とされる人間になれば良いと思う。

(委員)

全てを救うものは愛である。伊豆市を救うことも、日本を救うことも、地球を救うことも全ては愛であると考え。「これが好きだから、このために何かをしよう」という気持ちはその者を救ってくれるのではないかと考える。それを成し遂げるために、一番大切なことは教育だと思う。「自分は何ができるのか」、「伊豆市を愛する子どもを育てるにはどうしたらよいか」等を考え、素晴らしい子どもを育てる教育を進められれば、ある程度、様々な課題が解決するのではないかと思う。

(委員)

教師をしてきて、教え子について思い出していたが、非常に活躍している子もいれば、どこへ行ったか分からない子もいる。その中、先日嬉しく思ったことがあり、土肥中学校の教え子が、ある会の会長になっており、久しぶりに頑張っている姿を見て、良いなと思った。教育は大切であると思う。

また、月ヶ瀬インターができ、住んでいる環境が良くなったと感じている。今後、下田の方まで行けるようにしていただきたいと思う。伊豆縦貫自動車道を延伸すると、伊豆市はただ素通りされる地域になるのではという反対意見もあるが、私はそうでないと思う。土肥にも伊東の方にもいけるメリットがあるので、私の住む月ヶ瀬が一番良い所だと思えるような場所にしていきたいと考える。

(委員)

委員から「安心して子供が預けられるようにしたい」という意見があった。子育て支援について、市は様々な対策をしていただき、保育を預けられる時間も増え、子育て施策は充実してきている。一方で、子育て世代の両親が休みを取り、子どもと一緒に過ごす時間が増えるような育てやすい社会にしてほしいと思った。特に、男性の育児休暇は進められているものの、やはり休みにくいという現状もあるため、そのような社会を変えていけると良いなと思った。

また、看護師が不足していると言われたが、保育業界も同様に慢性的な人手不足の状態である。保育の専門学校ができるの良いと思った。

(委員)

伊豆市は、待機児童はいるか。

(健康福祉部)

希望する圏に入れないことはあるが、待機児童はいない。

(会長)

服部委員の少子化対策の考えに同様の意見である。婚活の取組はやり方が良くないと考える。伊豆市で婚活パーティを開催しても、伊豆市の人間は恥ずかしくて来ないと思う。3市1町のイベントとして開催できれば自分の好きな人を見つけられる可能性がある。伊豆市に住まなくても良いから結婚だけはしてくださいというイベントにした方が良い。伊豆市の人間はシャイなので、身内で集まると、もしプロポーズして断られたらみっともないという話になる。若い人のシャイなところを加味し、内緒で集まれる場にした方がよいと思う。

結婚できない理由について、収入が低いことも要因である。若い人は年間平均300万円程度の収入であり、私のバブルの時代では、お金もあったため、女性の付き合いも結婚も自由に選択できた。また、今の教育は、「男性は男らしくしてはいけない」、「女性は女らしくしてはいけない」という風潮になっている。そのため、男子は草食系になり、女性にアプローチする機会が減少したように感じる。男性は積極的でなければいけないという考えを教えていかないと結婚もしないのではないかと考える。そのような教育をしていただきたい。

過激な意見ではあるが、今の時代は、何でも平均点で取り組もうとするため、多少過激で凸凹した取組でないと上手く進まないとも考える。市長は平均よりも凸凹が好きで、突拍子もないことをやろうということなので良いと思う。

(事務局)

婚活の取組について、現在、シャイな方もいらっしゃるということで、県のこども未来課が少子化突破戦略としてAIマッチングアプリによる広域的な取組を進めようとしている。また、市では、消防団と県内外含めた女性の募集をし、男女が同数になる婚活イベントを進めている。さらに、男性は普段の職場の魅力を伝え、応援するものとして「イケメン図鑑」を作り、発信していきたいと考えている。服部委員のご指摘する結婚するための根本的な課題については、今後検討していきたい。

(会長)

婚活事業について、結婚する気がない人を集めることもある。本当に結婚したい人、相手を求めてくるようなイベントとして集めなければならない。イベント会社に委託した場合、イベント会社はアルバイトを募ることで、参加者数を調整する場合がある。伊豆市の人間の中で、独身の状況や意向をしっかりと把握してマッチングするのであれば良いが、イベント会社に丸投げしては絶対上手くいかないと考える。また、県が取り組むAIマッチングについても、そのような取組では結婚に繋がらないと考える。根本的な対策として、「結婚した方が良い」という教育をする必要がある。学校教育においては、試験勉強だけでなく、人間の教育をする必要がある。

(委員)

この問題は、学校だけの問題ではないと思う。学校だけでは限界がある。

(市長)

これまで「どういうまちにしたいか」ということで足し算を伺ってきた。実際に計画は、未来への足し算が大半になるが、伊豆市はこれから引き算もしなければならない。今、湯ヶ島温泉はずっ

と廃墟があったが今は全部無くなっている。引き算が終わった今、新しいまちづくりができる状態である。これから伊豆市の事業は、施策を打つためにコストカットも必要になる。

特に公共施設で、ある温泉施設で苦勞をしている。その手続きについて伺いたい。議会を通せば良いのか、市民に説明できれば良いのか、利用者全員に説明すれば良いのか、利用者全員の同意を得なければならないのか。現在、職員が利用者全員に説明しに回っているところであるが、そこまですべて行政コストをかけるべきかどうか。委員の皆様から回答いただきたいというより、市民の感覚としてどこまで行政が頑張ればよいか意見を伺いたい。

(委員)

職員に働きかけてもらっても決定するまで大変時間がかかる。民間のように経費がいくらで収益がいくらだからということで簡単に決断できるものでもない。万遍なく、薄く広く取り組まなければならないことは事実かもしれない。やる気ある職員の間を作ってくれれば、頑張れると思う。一人ひとり役に立つことができれば、人口は減っても大丈夫かと思う。

そのため、市の職員がそこまでやらなくても、水を少し取り、水が流れてくれるようにしてくれる程でよい。大きな川をつくる必要はない。ぜひ知恵を出してやってくれればよいと思う。

今日は子育て支援の話が多くあったかと思う。その子たちがどのように世界に羽ばたくかというのは教育の分野にもなろうかと思う。一人ひとり力を伸ばすことができ、持っている力を引き出せるようになれば、お互いに助け合い、若者からお年寄りまで頑張れるまちになるのではないかと思う。

(委員)

手続きや判断について、「市長としてこうしたい」ということを叫んでいただく。そして、「こういうメリット・デメリットがあります」ということを議会で議論していただき、そこで判断すれば良い。100人が100人賛成しないと結果が出ないのはあり得ない、多数決でよい。そうしなければ、前へ進んでいけない。文教ガーデンシティが失敗したことにより、伊豆市の教育は10年遅れたと思う。そのようなことはあってはならない。慎重になるだけでは良くない、しっかり整理をし、進めていただければ良い。

(委員)

市長がこうありたいとあって、議会で議決をとればよい。お金をかかる場所を切っていくべき事については、多少の文句は出ると思うが、議会で話し合って結論を出していただければ良い。

(委員)

議会で結論を出す一方で、議員が市民の代弁者となっているのかということも疑問がある。議員が市民全ての意見を聴取してはいないと思う。そのため、公益性や重要度を尺度として定めるとよい。これは、市民への説明会を旧4町で実施し、議員さんにも来てもらう。そうすれば、市民の反応や意見もその場で聴取できると思う。公益性や重要な問題の審議については、ただ議会一点ばかりでなくて、適宜対応し、判断して良いのではないかと考える。

ただ、職員の方が皆さんが利用者全員に説明する必要はない。職員一人ひとりの負担が多く、時間の無駄であり、それこそ議会の立場も無くなると思う。

(事務局)

次回は、8月12日(木)を予定している。最後の審議会になるが、貴重なご意見を反映し、ある程度完成に近いものを示していきたい。

4. 閉会

以上